夫への一言

あなたの協力に感謝して

今年もまた、主婦会の役員改選の季節がやってきて、頭をいためています。①

どこも内転をやらなければならない低賃金で、なかなか役員のなり手がないのが実情です。私は幸い保険のセールスで、時間の余裕がつくので、昨年から一年役員をしたのですが、やってみて本当に一年無我夢中でしたが、大変勉強になり主婦会運動がわかりかけたような気がします。

その間、あなたには大変めいわくもかけ、子どもの世話から炊事洗濯までたのむこともしばしばでしたね。とても感謝しています。

昔はこんなではなかったと思うと、やはりそれだけ妻に対して、主婦会活動に対しての理解が深まったのだろうと思っています。

古い女の生き方から、ぬけ出せない

ところが今年の役員改選で、後一年つとめてくれといわれ、あなたは「誰かがせんなんだろうけれど、お前がする必要はないだろうあまり出しゃばるな」といいましたね。普通、女が何かやろうとするとすぐ〝出しゃばり〟といわれ女も役員をやることも、他のことも自分一存でできなくて、やっぱり夫の承諾を求めます。

もちろん、経済的なものや、家庭の事情があるのだから話し合うのは当然ですが、今の私たちの考えは、どうしても古い封建的なものからぬけきれないようです。

〝がんばれよ〟の一言が

あなたが三池労組でがんばっていることも、私が主婦会活動をやることも全く同じことなのだとやっと判ったのです。

誰かがやらなければならない。それなら他の人に、ではなく、一人でも多くの人が〝なぜ主婦会活動するのか〟が判り、みんなで協力し合ってやらなければならないのではないかと思います。

そのためには、特に主婦にとっては、家族のそれも夫の理解と協力なしにはできません。あなたの〝がんばれよ〟というたった一言が、どんなに私を勇気づけてくれるか判りません。

× ×

主婦会活動と家庭

〝出しゃばり〟ではないつもり

宮浦・東谷分会

西田豊さん（45才）

詩

故・北岡氏をいたむ

（元・三川支部厚生部長）

三川・小柳重義

斗魂の権化ともいうべき　貴方が死んだ
信じられない　事実だ
だが貴方の死は　ただの病死ではない
斗いに明け　斗いに暮れ
身心ともに疲れ切った　五体に鞭うって
ひたすらに　三池労組に幸あれと
独占資本に真っ向から　立ち向かって
倒れた貴方——
合理化犠牲の　一人として　死んで逝ったのだ
公傷死ともいうべき　会社の責任でもある
斗いなかばにして　さぞ心残りが
胸いっぱいに　満していたことでしょう
きっかったでしょう、死にたくなかったでしょう、奥さんこんなに重くなってしまって。……「誰がしたねお母さん苦労ばっかりして、いまから親孝行ができたのに」と泣きくずれるお嬢さん。何一つ不服をいったことはなかったまだ脈があるじゃないか「何とかしてもらえないのかとすがっても手の施しようがないといわれたときの俺の気持を察してくれ、いまからが一番母親がいる年なのに四人の子どもを残されて残念でたまらない。」と御主人は泣いていらっしゃいました。

静かな優しい本当にいい奥さんでした。にっこりと笑いかけた写真にまた新たな涙がわくのです。この国のどこかで毎日毎日流されている多くの涙、この涙をなくすために主婦として母親として私たちも立ち上がらなければいけないのではないでしょうか。地域の中を、その周辺をよく見まわしてみましょう。きっと危い危いといまでも心配していらっしゃる所があるに違いありません。それを一つ一つ解決するために話し合いをもちましょう。そして実現できる場へ反映させましょう。

一人の会員の死に思う

宮内分会　西田洋子

「抵抗日記」(8)

ハーイ先生

港務　柿坂敏

山桜が咲き今年もまた小学校の入学期がやってきた。この季節になると私はある光景を思出し、ひとりでに笑がこみあげてくる。

それは一年生で入学した次女の授業参観日のできごとであった。ふと出席の婦人の中に同じ町内の私の所属課長の奥さんの顔を発見し、あの腕白坊主が娘と同じクラスであることを知った。

担任は若い女の先生だが、名指揮者の振るタクトのように、団体生活に未熟なる四十人の子どもを一糸乱れず統率していく手腕は正に名人芸だと感じ入った。今日の授業は数の概念を教えることが目的のようだった。先生は次のような質問をはじめた「皆さんの身体に二つあるものを先生に教えて下さい、たとえばお手々のように、ほら右と左と二つあるでしょう。その他に知っている人」の声が終るを待ちかねたように、先生ハイハイの声に静かだった教室が密蜂の巣のような騒ぎに変った。

先生の指名に答えて、足・眼・耳とつぎつぎに答えていった。二つあるものが、大人の私が考えても底をついてきたときだった、例の腕白坊主が「ハイ先生」とでっかい声で立ち上がった。先生に指名されると一度後をふり返えり念のいった大声で「チンポ」と、

世の中の
魅力に引かれることなく　生きる限り
労仂者魂を忘れるな！　と
この身にひしひしと　くい込む
教訓を……
その貴方は帰らぬ　天上の人となった
だが斗いはつづく　資本家の搾取のある限り——
悲しい時も　苦しい時も
心は暗く沈もうとも　みんなで
励まし　慰さめあって
悩みなんかは　吹き消すのだ
貴方は遠い雲の上から
同志の斗いを見守っていて下さい
三池の斗いは！　炎は！　つづいている
いまだ消えずに……
仲間が　同志が　若者の熱情が
だまってはいない
平和な社会を　明日の幸せを
築きあげます
安らかにお眠り下さい
さようなら　さようなら

家庭では何をやるか

家庭生活を高めるために (9)

ランドセルを持ち帰らない

市教組　石川保

このような「ランドセルは学校におこう」という動きは、今、多くの学校で先生や父母たちの間に話題となっています。テレビにでた母親の意見の主なものは「家庭とめたらよいのでしょうか。前にも書いたように、この考え方のもとでの勉強がされないので、学力が落ちるのではないか」また「家庭ではなにをさせたらよいか」などです。先生の意見としては「一年生はもっと家庭での教育をやってもらいたい」ということです。多少全国の学校現場へ政策的なものとしてしんとうしてきた「テスト主義」からきています。点数さえよければその子はよい子だという、誤まった考え方によるものです。

このような教育ママに対しては、ランドセルを持って帰らない子どもはどうしたらよいか、ここがほんとうのねらいであると思いますし、これを一つの契機として、家庭教育のあり方について再検討すべきであると思います。

テストの点数が少ない子どもが悪い子かのような考え方は、全くまちがいです。大牟田にも早くこんな学校が出来たいものですし、一年生だけでなく、少なくとも小学生はみんなランドセルを家へ持って帰らない学校にしたいものです。

（筆者は大牟田市教組書記長）

テストだけで評価しない

このことをどう考え、どううけとめたらよいのでしょうか。前にも書いたように、この考え方のもとでの勉強がされないので、学力が落ちるのではないか」また「家庭ではなにをさせたらよいか」などです。先生の意見としては「一年生はもっと家庭での教育をやってもらいたい」ということです。多少全国の学校現場へ政策的なものとしてしんとうしてきた「テスト主義」からきています。点数さえよければその子はよい子だという、誤まった考え方によるものです。

このような教育ママに対しては、ランドセルを持って帰らない子どもはどうしたらよいか、ここがほんとうのねらいであると思いますし、これを一つの契機として、家庭教育のあり方について再検討すべきであると思います。

テストの点数が少ない子どもが悪い子かのような考え方は、全くまちがいです。大牟田にも早くこんな学校が出来たいものですし、一年生だけでなく、少なくとも小学生はみんなランドセルを家へ持って帰らない学校にしたいものです。

（筆者は大牟田市教組書記長）

はじめて神戸で

毎朝八時から、RKBテレビで「おはよう、にっぽん」があっています。先日これを見ていたら、神戸市のある小学校で、小学校一年生がランドセルを背おわずに学校に来ているようすがとりあげられていました。つまり、新一年生のみは学校にランドセル（中の教科書やノートや学用品なども）をおいて、家庭には何も持って帰らないというわけです。

この発想は二つあります。一つはランドセルが重くて（一年生のランドセルの重さは、平均約二キログラムだそうです）健康上少々無理をすることと、もう一つは、最近の交通戦争から守るため、ランドセルを背おわない方がびんしょうに動けるというわけです。

とてつもないことを口走った。この意外の迷答に静まりつつあった教室は、参観者も交じえて、でんぐり返えるような爆笑につつまれた。これにはさすがの先生も度肝をぬかれてか、若い先生という本能が転業意識を飛こえて顔に集中して表現された。

私は、さあ先生どうするかと野次馬根性が頭をもちあげていた。しかしさすがよ先生、とまどいの気持の整理に時間をかけなかった答が間違っているという一つの救いを実にたくみに捕えた。「チンポは一つでしょう。〇〇君のオシッコするものは二つあるのかなあ」と半分笑いながら、すんなりと、さわやかに処理された。もし腕白が「キンタマ」とはったものなら答が正解なだけに、こうまく切りぬけられなかったろう。答えたりや腕白、切りぬけたり先生と、私は妙な処で感心したものだこの話をその日の二番方の事務所でひろうすると、係長、係員みんな涙をためて大笑だった。

私は思うこんな話をするなごやかさはいまの転場には薬にしたってない。またいまの転制には上役の子どもの失敗を大声で笑う勇気があるだろうか。ないないそんなものは夢のかけらだってない。

それは、分裂前の古き良き時代の私の忘れ得ぬ思出である。

煮魚のコツ

煮汁をたっぷり入れ、落としブタをして、弱火で煮上げることです。ヒラメやカレイのように、皮がすぐナベの底につきやすいものは、竹皮をナベ底に敷いてたっぷりの煮汁で煮ると、皮も底につく心配がなく、おいしく煮ることができます。

アイロンびかり

洋服類にうっかりしてアイロンびかりをつくってしまった場合には、ぬるま湯にアンモニアを杯半分から一杯ほど入れたものにタオルを浸し、よくしぼって、ひかったところをふき、そのタオルの上からアイロンをかけるようにします。